

平成29年緑化推進運動功労者  
内閣総理大臣表彰受賞者・功績概要

## [個人]

ごうど なおひ  
神戸 直日

(長野県長野市)

すぎやま よしひで  
杉山 嘉英

(静岡県榛原郡川根本町)

## [団体]

くし ろ ちょうりつ とお や しょうがっ こう  
釧路町立遠矢小学校

(北海道釧路郡釧路町)

くり やまちょう さと やまけい かくじつ こう い いんかい  
栗山町ハサンベツ 里山計画実行委員会

(北海道夕張郡栗山町)

とくてい ひ え いり かつどう ほうじん ざ おう みず まも かい  
特定非営利活動法人蔵王のブナと水を守る会

(宮城県白石市)

ほうじん さと やま  
NPO法人 ちば 里山トラスト

(千葉県柏市)

さがみ の やすらぎ まち い いんかい  
さがみ野やすらぎ街づくり委員会

(神奈川県座間市)

おく おお の むら い いんかい  
奥大野村づくり委員会

(京都府京丹後市)

にし やましん りん せい び すいしん きょう ぎ かい  
西山森林整備推進協議会

(京都府長岡京市)

なら ひと し ぜん かい  
奈良・人と自然の会

(奈良県奈良市)

すみ とも こうぎょう かつぶ しき がいしゃ みやざき こうじょう  
住友ゴム工業株式会社 宮崎工場

(宮崎県都城市)

か ご し ま し りつ にしむらさき ばる しょうがっ こう  
鹿児島市立西紫原小学校

(鹿児島県鹿児島市)

ごうど なおひ  
神戸 直日

---

長野県長野市

---

<功績の概要>

同氏は、スギ苗木を中心に長年 さんりんしゅびょうせいさん山林種苗生産に携わっており、現在はカラマツやスギのコンテナ苗木を生産している。従前から花粉症対策として、花粉の発生が少ないといわれるクマスギを生産してきたが、現在は、少花粉スギの生産に力を入れている。また、効率的な生産方法を探る取組みとして、マイクロカッティング法による生産に関する試験研究にも協力するなど、新たな山林種苗生産技術の確立のため長期にわたり、貢献をしている。

さらに、平成 10 年長野県で開催された冬期オリンピック競技大会においては、長野市のスピードスケート競技会場やボブスレー、リュージュ競技会場などに緑化木を植栽するなど、オリンピック関連施設の緑化に尽力した。

山林種苗生産に係る体制づくりや後継者育成に対しても積極的に関わり、長野県山林種苗協同組合、公益財団法人長野県緑の基金の理事等の要職につき、緑化推進や種苗生産技術の向上に指導的役割を果たしているほか、平成 16 年から長野県林業経営者協会副会長(平成 28 年から会長職)を務め、林業技術の普及、指導に尽力し、長野県における林業振興に貢献している。

一方、平成 15 年には地元で森林整備会議を設立し、行政、企業、地域住民、ボランティアの連携・協働による森林整備の推進に尽力している。

[個人]

---

すぎやま よしひで  
杉山 嘉英

---

静岡県 はいばらぐんかわねほんちょう  
榛原郡川根本町

---

<功績の概要>

同氏は、実家の家業である林業を継ぎ39年となり、就業当時から現在まで、地域林業を「理論」、「実践」の両面で牽引している。

平成8年には、旧 なかがわねちょう 中川根町(現 かわねほんちょう 川根本町)に協業体組織「ウッドクラフト中川根」を設立し、林業機械の共同購入・利用による利用間伐の低コスト化・協業化を推進し、平成11年に静岡県で開催された全国植樹祭で森づくり宣言を行うなど、県の林業家のリーダーとして認知されている。

また、平成14～21年まで、旧中川根町、川根本町の町長を務め、現在も、森林組合おおいがわ代表理事副組合長に就き、県の森林・林業の発展に貢献している。

平成27年には、林内の未利用残材を集荷、出荷し、得た利益を地域内通貨券として流通させる事業を立ち上げ、事業を開始した平成27年は2ヶ月で184tの林地残材を集荷し、70万円分の地域通貨券を発券した。この事業は、森林・林業の再生と、地域経済の発展を担う可能性を秘めている。平成28年は300tの集荷を目標とし、さらに森林整備に関する講習会を行うなど、きめ細やかな活動で、初心者や過去に山を諦めた人々を林業の仲間として集めることにも尽力しており、林業のみならず、地域の発展に貢献している。

[団 体]

---

くし ろ ちようりつ とお やしょうがっこう  
釧路町立遠矢小学校

---

所 在 地 北海道釧路郡釧路町

代 表 者 校長 おおしま まさみ  
大島 正実

---

＜功績の概要＞

同校は、釧路川を中心に、自然豊かな釧路湿原と狭い山地に囲まれた地域にあり、平成8年から、未来を担う子どもたちが湿原や河川とふれあうことで、釧路湿原が持つ自然の重要性について理解を高め行動できるよう植樹活動を通じた環境保全活動をおこなっている。この植樹は国土交通省北海道開発局釧路開発建設部と連携した「花咲かじいさんプロジェクト」と称した活動で、釧路川流域の在来種からタネを取り、なえどこ苗床づくりから植樹までの一連作業を、学年を経て継続して行う特色ある活動である。

この活動は、20年を超え、これまで延べ5,000人を超える児童が参加している。このような世代を超えた教育活動は流域住民の環境保全への啓発にも繋がっており、その功績は顕著である。一昨年は20年目となる節目に卒業生が参加して当時植樹した樹木の視察を行うなど、在校生とともに環境保全を実施した。

地域の将来を担う地元の子供たちが、湿原や河川、自然環境の大切さを学びながら、湿原周辺での植樹活動に積極的に取り組み、その活動を通じて、自然の大切さを先輩から後輩へ繋げることで学校全体での社会教育に貢献している。

[団 体]

---

くりやまちょう さとやまけいかくじっこういんかい  
栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会

---

所在地 北海道夕張郡栗山町  
代表者 実行委員長 たかくら あつし 高倉 淳

---

< 功績の概要 >

同委員会では、長年放置されていた 24 ha の離農跡地とその周辺約 70 ha の林地「ハサンベツ地区」を平成 13 年から「人が自然の恵みと共存する里山」として復元する活動を開始。活動は 20 年計画で進められ、なえはた 苗畑・繁殖地造成などを行う「ミズバショウの花が咲いているプロジェクト」や、森の手入れや植樹、自然観察会などを行う「森の木陰でドンジャラホイプロジェクト」など童謡の歌詞をなぞった 10 のプロジェクト事業を行っており、その取組はユニークで多岐にわたっている。

また、5～11 月の毎月第 2 日曜日を「ハサンベツ里山の日」として全町民に呼びかけ、湿原の再生など里山づくりを地域と一体となって進め、雑木林の間伐・下枝払いや下草刈りをはじめ、洪水により浸食された沢に参加住民による手作業で たまいしぐみごかん さほうせき 玉石組護岸や砂防堰を設けるなど、林地保全・林地防災の活動を行い、その体験活動から森と水、川のつながりを学ぶとともに、希少種ニホンザリガニの生息環境を保全し、森と里山、人と生き物たちとの「共生」を体感する活動に尽力している。

こうした活動や里山を構成する田んぼ、その他の水辺地等をフィールドとして、環境学習・自然体験活動等に町内外の青少年や親子達を毎年 2 千人以上受け入れ、次代を担う若い世代を中心に、地域における緑化思想の普及と継承にも貢献をしている。

[団 体]

---

とくてい ひ え いりかつどうほうじん ざ おう みず まも かい  
特定非営利活動法人蔵王のブナと水を守る会

---

所在地 宮城県白石市

代表者 理事長 白内 恵美子

---

〈功績の概要〉

同会は、昭和61年の発足以降30年にわたり、荒廃地への植林や植林地の整備等とおして、森林復元の活動、森を守る活動を継続している。

南蔵王の荒れ地を広葉樹の森に復元するため、試行錯誤を繰り返しながら森づくりの手法を独自に考案し、植林活動を実践してきた。平成10年からナショナル・トラスト運動を開始し、平成13年までに白石市との共同取得地も合わせて13.7ヘクタールの荒廃地を購入して、一般市民や企業に呼びかけ毎年植林祭を開催し、平成25年にはトラスト地に4万本以上の植林を終了した。

植林後は定期的な枝打ちや間伐等の育林作業に取り組み、順調に生育した箇所については一般に開放できるよう整備を行い、平成27年には自然観察路を3コース開設するなど、自然に親しめるような場づくりを行っている。

また、森づくりの技術を多くの人に伝えることを目的に毎月「森の教室」を開催し、後継者の育成にも取り組むなど、将来的にも森づくり活動が継続されるよう尽力している。

同会は、活動をおして多くの人々が自然に触れ、関心をもつ一般市民や企業を生み出しており、自然環境保護推進の役割を果たしている。

[団 体]

---

ほうじん さとやま  
NPO法人 ちば 里山トラスト

---

所 在 地 千葉県柏市

代 表 者 理事長 ねもと としはる  
根元 利治

---

＜功績の概要＞

同団体は千葉県が平成 15 年に制定した里山条例を契機に、自然豊かな里山への理解を深め、その保全や整備、活用等の事業を行うことを目的とし、平成 16 年より活動を開始した。以来、里山ボランティアの先駆者として、活動拠点である柏市において、里山整備活動や次世代の里山ボランティア育成といった分野で大きく貢献している。

普段は市内に残る最も大きな樹林地を活動の拠点とし、里山保全活動を行うと共に、市の公園である「あけぼの山公園」の公園の老齢サクラの管理や、水生植物の管理など、多岐に渡る活動を行っている。

近年は森の活用に力を入れており、芋煮会、雑煮会、音楽会といったイベントを定期的で開催し、土地所有者や地域との交流を図っているほか、ボーイスカウトの野外活動の場、東京大学との共同研究のフィールドとしても活用している。また、屋内においてもパネル展示や森のネイチャークラフト展を積極的に実施するなど、樹林地の適正な整備による景観形成・生態保全のみならず、その活用に力を入れることで地域住民の緑への愛護心の育成にも貢献している。

一方で里山ボランティアの担い手育成にも携わっており、柏市が主催する里山ボランティア入門講座の運営を行っている。毎年この講座の卒業生達がボランティア団体を立ち上げて活動しており、現在 10 団体が生まれ、市内 15 カ所の里山において整備を行っている。

[団 体]

---

の まち い いんかい  
さがみ 野 やすらぎ 街 づくり 委員会

---

所 在 地 神奈川県座間市  
代 表 者 会長 関吉 実治

---

< 功績の概要 >

同団体は、平成 12 年から、さがみ野地区における市道の緑地帯を花壇化する「ストリートガーデン」、商店街にある 30 か所に及ぶ花壇の維持管理を実施する「街のガーデン」の緑化推進に努めている。

「ストリートガーデン」は、市道沿いにある緑地帯の花壇(300m)に、夏と冬の年 2 回、大規模な植栽を行っている。この活動では、同団体のみならず、地元の住民、幼稚園児や中学生、米軍厚木基地下士官約 100 人など、様々なメンバーが参加し、年代や国籍を超えた交流の場にもなってきた。現在では、東京農業大学の学生や地元スポーツ少年団の子どもたちも加わり、その活動にさらなる広がりを見せている。また、夏の花壇の手入れには、地元中学校のボランティアの手伝いもあり、美しい花壇を保っている。

「街のガーデン」では、花壇の維持管理をする里親と、その花壇に花苗を提供するスポンサー(企業や団体)とで成り立つ里親制度を取り入れており、地域の住民と企業の協力体制により取り組むことで、継続的な活動ができるとともに、広大な花壇の管理を可能としている。また、花壇のデザインは、里親に任せられ、飽きることのないバラエティに飛んだ花壇で、街ゆく人を楽しませている。

同団体は、こうした緑化推進活動により、地域住民のみならず、多くの人達の緑化意識の向上、また、街づくりに貢献をしている。



[団 体]

---

おく おお の むら い いん かい  
奥大野村づくり委員会

---

所在地 京都府京丹後市

代表者 委員長 田村 洋

---

< 功績の概要 >

同委員会は、平成 7 年に設立され、奥大野のすばらしい豊かな自然を活かしながら、「ふるさとの川をふたたび！」のキャッチフレーズのもと、奥大野川堤防の草刈り、市道奥大野中央線沿線を中心としたサクラソウフラワーロードの推進、倉垣桜公園の整備等の活動を行っている。

奥大野川堤防の約 1.5 キロメートルにわたる草刈り活動は、団体の設立当初から開始し、現在では多くの住民の方が参加しており、世代を超えた交流の場にもなっている。また、草刈り活動により、河川改修が行われ、河川敷に作られた公園では、お盆に納涼祭が開催されるなど、地域の活性化に貢献している。

また、21 年間にわたり、奥大野中央線沿線に「花の道」花いっぱい運動に取り組んでいる。約 2 キロメートルの区間にサクラソウのプランター 700 個を設置しているほか、春と秋の道路一斉クリーン作戦の活動など、道路緑化、美化活動に貢献している。

平成 13 年からは地域公園の整備にも取り掛かり、サクラを植樹するオーナー制度を導入し、住民参加の緑化推進に努めている。現在では、約 850 本のサクラの木が育つ公園となり、地域のサクラの新名所となっている。

堤防の草刈りから始まった活動が、住民の緑化・環境意識の向上、住民同士が繋がる街づくりに貢献をしている。

[団 体]

---

にし やま しん りん せい び すい しん きょう ぎ かい  
西山森林整備推進協議会

---

所在地 京都府長岡京市  
代表者 会長 徳地 直子

---

< 功績の概要 >

同協議会は、京都府長岡京市の西域約 800ha を占める森林(=西山)が、社会情勢や生活様式の変化により荒廃が進んでいることに問題意識を持ち、平成 17 年 6 月に森林所有者・地域住民・企業・NPO・大学・行政等の多様な主体が集まり設立。「つなげたいみどりの西山未来の子らへ」を合言葉に協働しながら森林保全活動に取り組んでいる。

これまでの継続的な活動で、平成 28 年 3 月末までの森林整備面積は 273.80ha で、西山の 3 分の 1 以上に及ぶ。また、整備により認定された CO<sub>2</sub>吸収量は 1,408t-CO<sub>2</sub>となり、低炭素社会の構築にも貢献している。さらに、整備を進める上で必要な作業道を開設する際には、法面緑化に外来種を含まない無種子<sup>むしゅし</sup>マットを採用し、地域の在来種に配慮した緑化にも取り組んでいる。

また、地域住民の森林への関心を高めるため、100 名規模の森林ボランティア活動や森林ボランティア養成講座、体験型環境教育事業を実施し参画者を増やしている。

このほか、森林整備で搬出した市内産材を公共施設の内装材や、薪として販売しているほか、市内への小学校への薪ストーブの導入、小学生が育てたドングリの苗木の補植など、地域を巻き込んだ幅広い取り組みにより森林の多面的機能の回復と緑化の推進を図っている。

[団 体]

---

な ら ひ と し ぜ ん か い  
奈良・人と自然の会

---

所 在 地 奈良県奈良市

代 表 者 会長 すずき 鈴木 すえいち 末一

---

< 功績の概要 >

同団体は、平成 13 年に設立され、棚田の復元や放置林の間伐を実施してきた。平成 19 年からは歴史的風土特別保存地区(平城宮跡地区)内の県有地を活動場所とし、放置され荒廃していた里山の除間伐、植樹、竹林整備、田畑の復元などに精力的に取り組んでいる。現在では約 16ha の県有地で活動を行い、歴史的風土の保存及び里山里地景観の創出に貢献している。

活動場所の整備にあたっては、鳥・昆虫・植物の調査を行ってから着手するなど、その土地固有の生態系の保全に配慮し行っている。

ナラ枯れ被害対策として、平成 23 年にコナラ(約 2,000 本)の台帳を作成し、以後の防除に努めている。毎週の巡視観察による早期発見防除のほか、区域を決めての皆伐、萌芽更新施業によりコナラ林の若返りを図り、「ナラ枯れ被害に遭わない森づくり」を進めている。

活動は継続的かつ発展的であり、現在の会員数は 152 名であるが毎週木曜日の活動日には毎回約 70 人が集まり、里山整備や花作り、野菜栽培などに汗を流している。活動を見て参加を希望する近隣住民も多く、地元小学校の環境教育に協力するなど、地域に根ざした活動となっている。

[団 体]

---

すみとも                      こうぎょうかぶしき がいしゃ                      みやざき こうじょう  
住友ゴム 工業株式会社                      宮崎工場

---

所 在 地                      宮崎県都城市

代 表 者                      代表取締役社長                      いけだ                      いくじ  
池田                      育嗣

---

< 功績の概要 >

同工場は、周りが住宅街等であることから、敷地境界に高木等を配置し、周辺環境に配慮した緑化を実施している。

構内では、平成 24 年にビオトープを設置。このビオトープは全て従業員の手作りで作成されており環境学習会や蛍鑑賞会等も実施されている。

また、地域と工場との協働事業として、地元の保育園児や従業員が拾い集めたどんぐりを工場内で育成し、成長した苗木を外部の自然保護活動団体へ寄贈している。なお、絶滅危惧Ⅱ類に分類されているキク科のヒゴタイを工場内で育成し、育てた株を自生地であった都城市西岳地区に植栽するとともに、地元小中学校へ寄贈し、学校と一体となった種の保存活動に取り組んでいる。近年では、ひまわりを育て採れた種を福島県南相馬へ贈呈する「南相馬ひまわりプロジェクト」を実施する等、工場外での緑化活動にも積極的に取り組んでいる。

その他、従業員による部署対抗のグリーンカーテンコンテストや地域のボランティア活動への参加等、従業員の環境意識啓発活動にも取り組んでいる。

同工場は周辺との関わりも含めた工場緑化活動に貢献している。

[団 体]

---

かごしましりつにしむらさきばるしょうがっこう  
鹿児島市立西紫原小学校

---

所在地 鹿児島県鹿児島市  
代表者 校長 根木原 俊明

---

< 功績の概要 >

同校は、学校緑化を教育の根幹に据え、学校教育目標や地域と児童の実態と関連付けながら、花づくりは「人づくり」の理念のもと、「花育」に取り組んでいる。

「花育」を通して子供たちは、緑化環境づくりに主体的に関わり、豊かな情操や自然への働きかけによる科学性、自主性、社会性を育てている。さらに、緑化活動は、子供一人一人にとって、身近な環境問題を実践的、体験的に学ぶ絶好の機会となっている。

学校には、季節感を味わえる花の品種や樹木が計画的に配置しており、一人一鉢の花と学級園を立体的に組み合わせたオープンガーデン「フラワーロード」や年間を通じて咲き誇る1万本の花は、地域の「花のスポット」として、地域住民のふれあい、交流の場にもなっている。

また、子供たちは自ら育てた花苗を、近隣の幼稚園や児童クラブ、街頭等で地域住民に配布することで、地域の緑化活動に貢献する喜びを体感し、そのことによって、校区内の緑地帯や公園の除草・清掃活動など、住みよい地域環境・景観作りにも積極的に取り組むようになり、同校の「花育」は、地域への広がりを見せている。